

わったー しまぬ はーりーや みぐとぅな むん。
私たちの故郷のはーりーは、見事なものだ。



はーりーは、豊漁や海の安全を願って行う祭りです。

沖縄で行われるはーりー行事の中でも「那覇はーりー」は最大規模で、およそ600年の歴史があるといわれています。

ちゅーや はーりー、
まじゅーん んーじが
いかな。
今日ははーりーの日。
いっしょ
一緒に見に行こう。

わんにん そーてい
づんじ くいみそーれー。
私も連れていってください。

いー。
まじゅん いか。
いいですよ。
一緒に行こう。



んかしえー、はーりーぬ ひーや
ゆっかぬひーに うくなとーたん。
昔は、はーりーの日は、
(旧暦の)5月4日に行っていたんだよ。



中南部各地の行事

中南部の各地域にはいろいろな行事があり、その地域に住む人々が大切に守り続けてきました。あなたの地域には、どのような行事がありますか。

しまくとぅば ちかてい、しまぬ しちびんかい んーな まじゅーん
いかな。

しまくとぅばを使って、故郷のお祭り（行事）に、みんなと一緒に
参加しよう。



↑ 那覇大綱曳き



↑ 獅子舞フェスティバル



↑ 全島えいさ祭り



↑ 与那原大綱曳き



↑ 海神祭（座間味村）



↑ 糸満はーれー（※糸満では、はーれーと言います。）

わね しまぬ むらうどういや、でいきとん。
私たちの島の村踊りは、見事なものだ。



むらうどい（村踊り）は、豊作や村の人々の安全を願って行う祭りです。

ちゅーや むらうどうい
いえーくとう、
まんな みーが いかー。
今日は村踊りだから、一緒に
見に行こう。



すやぬ うながみや、やんばるうっていや
なー うりとる まつり いえーんどー。
塩屋のうながみは、北部で有名な祭りなんだよ。

わね そーてい いじ
とらしえー。
私を連れて行って下さい。



みんながなしー

はーれーぬ
でーじな うっさん。
はーリーが、
とてもおもしろいよ。



北部の行事



↑ 塩屋のうながみ



↑ 安田のしめぐ



↑ 安和のうしてーく



↑ 久志の若按司（久志区）



↑ 屋部の八月踊り

ぱんとうーや みゃーくんうていや なーだか
まちりどーや。

ぱんとうーは、^{みやこ}宮古では有名な祭りなんだよ。



ばんたが しうまぬ ぱんとうーや、みゃーくぬ しうまじうーんど あいう。

わたしたちの島のぱんとうーは、宮古の島中にあります。

ばぬー さーり いき
ふーいーさーち。

私を連れて行って下さい。

きゅーや ぱんとうー やーば
まーちっき みーが いか。

今日はぱんとうーだから、
いっしょ
一緒に見に行こう。



ぱんとうー

どろー どろが んーなんかい
たっかーし、ぴうとー
ういきしうまーいう。

どろを自分のからだにぬりたくって、
人を追いかけて回る。



宮古の行事



↑城边上区の獅子舞



↑川満棒踊り



↑うるかくいちゃー



↑まつばら
松原の獅子舞



↑やーます御願



↑池間のくいちゃー



↑ともり
友利のくいちゃー



↑友利獅子舞

ばがー しゅまぬ ぷーりゅや みぐうとう。
わたしたちの島の豊年祭は、見事なものだ。



ぷーりゅ（豊年祭）は、豊漁や海の安全を願って行う祭りです。集落ごとに行われる祭りで、八重山で行われる行事の中でも規模が大きく、人々が楽しみにしている行事です。

きゅーや ぷーりゅどう
やりきー、まーぞんさーり
いきって みしら。
今日は豊年祭だから、一緒に
見に行こう。

ばぬん、さーり いき ひょーり。
私を連れて行って下さい。

なー うつあれーんどー。
有名なんだよ。



しゅかあざぬ あんがまーぬ
むんどーや うむっさんどー。
四箇字のあんがまーの問答が、
おもしろいよ。



あんがまー

八重山の行事



↑ 竹富のたにどうり



↑ 西表祖納のしつまつり



↑ 波照間のむしやーま



↑ 小浜結願祭



↑ 川平のまゆんがなし



↑ ゆっかぬひー



↑ 四か字豊年祭 つなぬみん

ばーちまぬ うがんふとうていや
みぐとぅな むぬどぅー。
わたしたちの島の豊年祭は、見事なものだ。



うがんふとうてい（豊年祭）は、豊漁や海の安全を願って行う祭りです。
与那国で行われる行事の中でも、「どうんた」や「棒踊り」はみんなが楽しみにしています。

すーや うがんふとうていどう
あるんがら、まどうん
んにんてい でいー。
今日は豊年祭だから、
一緒に見に行こう。



たんでい あぬ
すいひー とぅらしんに。
私を連れて行って下さい。



うとったがる まちりどう
ないぶる。
有名な祭りなんだよ。



「どうんた」き「ぶー つかい」
あらーぐ、うむつつあんどー。
「どうんた」と「棒踊り」が、
とてもおもしろいよ。



どうんた

与那国の行事



↑ぶーぶーどういし（棒踊り）



↑たていうさい



↑みていうた



↑くぶらまちり



↑うがんふとうてい

いいー そーぐわち れーびる。

良いお正月です。



一年の計は元旦にありといわれます。元日には、家族が集まってきちんとあいさつを行い、一年の抱負などを述べ合うのも良いかもしれませんね。

あなたの今年の正月はいかがでしたか？

いいー そーぐわち
なとーんやー。
良いお正月になりましたね。

にんとうーぬ えーさち
うんぬき やびら。
年頭のあいさつをします。

くとうしん ゆたさるぐとう うにげー さびら。
今年もよろしくお願いします。

北 部 いいー そーぐわち やー。

にんとうーぬ えーすとう しーが
つちゃん。
年頭のあいさつに来ました。
いいー そーぐわち やー。
良い正月です。

くたいん ゆたはるぐとうやー。
今年もよろしくね。

宮 古 かぎ しょーがちうんどー なり ういう。

しょーがちうぬ あいさつちう
すーでい。
年頭のあいさつをします。
かぎ しょーがちうやー。
良い正月です。

くとうしうまい たかさーしー
かいーさーち。
今年もよろしくお願いします。

八 重 山 いー しょんぐわじうー。

にんとうぬ あいさちう っさりんゆー。
年頭のあいさつをします。
いー しょんぐわじうー。
良い正月です。

にんとうぬ あいさちう っさりんゆー。
今年もよろしくお願いします。

与 那 国 いー すんがていどう ないぶるゆ。

にんとうぬ あいさいてい っありるん。
年頭のあいさつをします。
いー すんがてい。
良い正月です。

くとうちん いーくとうゆ
あらみとーらしわり。
今年もよろしくお願いします。



正月にうたわれるうたを調べてみましょう。

中 南 部 / 北 部 「かじゃでいふう」(かぎやで風)

あらたまぬ とうしに たんとう くぶ かじゃてい
くくるから しがた わかく なゆさ。

新年に炭とこんぶをかざって、心から若くなったような心持ちがする。

きゆうぬ ふくらしやや なをうにじゃなたている
ちぶでいうる はなぬ ちゆちゃ たぐうとう。

今日のうれしさは何に例えよう。つぼんでいる花がつゆに出会って花が開いたようだ。

宮 古 「とーがにあやぐ」

うぶゆ ていらしゆる まていだだき 国ぬ 国々
島ぬ 島々 ていりやーがり うすいよ～。

大世を照らしている真太陽（ティダ）のように 国の国々、島の島々を照りかがやき統治する～。

八 重 山 「ばしうぬ とおりうぶし」(わしの鳥節)

～ しょんぐわじうぬ しうとうむでい ぐわんにちうぬ 朝ばな あがるかい
飛びちうけ ていだば かめ まいちうけ。

(7・8番の歌詞) 正月の早朝に 元日の朝まだきに

(若わしは) 東の方に飛んでいった太陽をいただいてまて行った。

※与那国では、正月には中南部と同じように「かぎやで風」がうたわれるのが一般的です。

中南部 むーちー ちゅくてい、とうしぬ

かじぬ むーちー さぎらな。

むーちーを作って、年の数のむーちーを下げよう。



旧暦の12月8日は「むーちー」を食べる日です。「さんにな（月桃）」の葉に包まれた「むーちー」は、よい香りがする、おいしい食べ物ですね。また、みんなの年の数だけヒモで結んで天井からつるす風習もあります。またこの時期は、「むーちーびーさ」といって、一年でも寒くなる季節でもあります。おいしい「むーちー」をたくさん食べて、身も心も暖かくなりましょう。

むーちー うふおーく ちゅくてーぐとう ちゅふあーら かみよー。
むーちーをたくさん作ってあるから、お腹いっぱい食べてね。

あいえー、まーさぎさんやー。
とー、ていーちえー かりんーら。
ああ、おいしそうだね。
それでは、ひとつ食べてみよう。



北部 うりむちー とうくてい、
とうしぬ かじ うりむちー さぎらー。

うりむちー ふおーく とうくてくとう、
わたみちゆか くえーよー。
むーちーをたくさん作ってあるから、お腹いっぱい食べてね。
まーはぶちやげらはぬ。
だー、ていーち くわーてい んだー。
おいしそうだね。それでは、ひとつ食べてみよう。



メ
モ

6 年中行事

宮古 むっちゅう ちうっふい、とうしぬ
かずだき むっちゅう さぎやー。

むっちゅう うばーた つっふい
うきば ばたーんちうきや あいよー。
むーちーをたくさん作ってあるから、お腹いっぱい食べてね。
あがんにや（あば）、んまぎやー。
あら、ぴうていーちう あいみー。
ああ、おいしそうだね。それでは、ひとつ食べてみよう。
(※最近では宮古の家庭でもムーチーを作ったりしますが、
本来、宮古にはムーチー行事は行われていませんでした。)



八重山 むつば つくり
とうすぬ かず さげー みやーむー。

むつ たかーに ちうくれーりきー
ばだぬ んちうんけん ほういよー。
むーちーをたくさん作ってあるから、お腹いっぱい食べてね。
いびー、んまさんがしゃーそー あんずかー
ぴていーず ほうい みやーむー。
ああ、おいしそうだね。それでは、ひとつ食べてみよう。



与那国 むてい つくいてい、
とうちぬ かでい さんぎるん。

むてい まーしく つくいあんがら、ばた んくた はいばえー。
むーちーをたくさん作ってあるから、お腹いっぱい食べてね。
あー、まーさんぎさんがえー。いた ？とうち はいんぬー。
ああ、おいしそうだね。それでは、ひとつ食べてみよう。



ちゅーや しーみー。するてい はかめーが いか。
 せいまいさい
 今日は清明祭。みんなで墓参りに行こう。

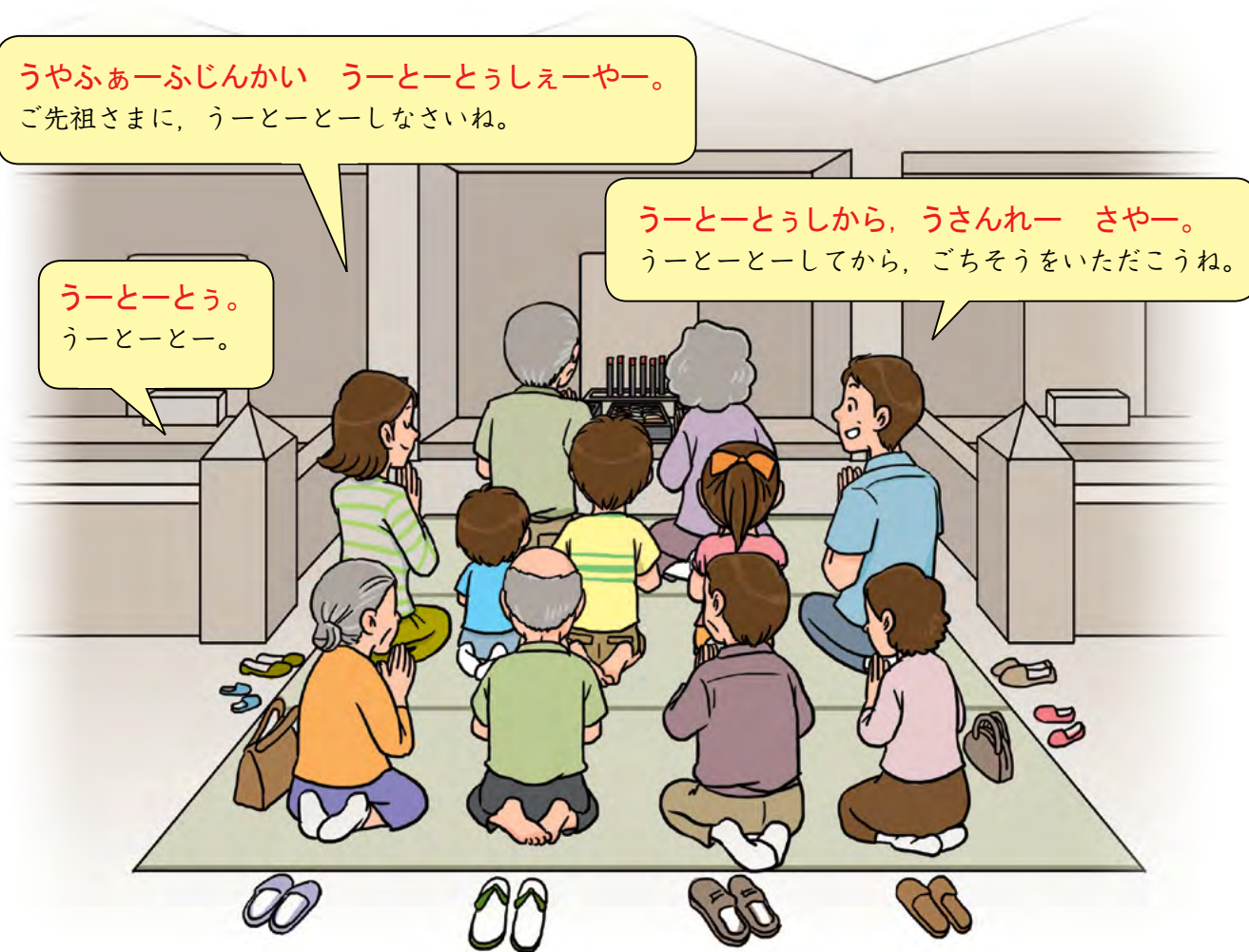


沖縄島では、4月のはじめに「しーみー（清明祭）」を行います。そのときは、家族や一族が集まって墓参りをして、ごちそうをお供えして、ご先祖さまを供養します。

うやふあーふじんかい うーとーとうしえーやー。
 ご先祖さまに、うーとーとーしなさいね。

うーとーとう。
 うーとーとー。

うーとーとうしから、うさんれー さやー。
 うーとーとーしてから、ごちそうをいただこうね。



北 部
 ちゅーや しーみー。
 むんどーり すりてい ふあかけ いかー。

うやふあーふじけ とーとう しえー。
 ご先祖にうーとーとーしなさいね。

とーとう しちから、さんでー さーやー。
 うーとーとーしてから、ごちそうをいただこう。

うーとーとう。
 うーとーとー。



宮 古 ・ 八 重 山 ・ 与 那 国

きょうは十六日祭。みんなで墓参りに行こう。



宮古や八重山、与那国では、「十六日祭（じゅーるくにちー）」が盛んです。「じゅーるくにちー」は、旧暦の1月16日に行う墓参りです。あの世（後生）の正月といわれています。

宮 古
 きゅーや じゅーるくにちう。
 んーなし ぱかんかい いか。

きゅーや じゅーるくにちう やーば んまむぬー くーつうい きうしうたいう。
 んーなしー んきぎさーち。

今日は十六日祭だから、ごちそうを準備してきました。みなさんでお召し上がりください。

ずー、んーなしー ていーや かみっていから、んまむぬー ぶあー。
 さあ、みんなで手を合わせて、ごちそうをいただこう。

八 重 山
 きゅーや じゅーるくにちう
 むーるさーり はかかい はららー。

きゅーや じゅーるくにちう やりきー こっきー しこーりきーだ けーらし
 おいしとーんなーらー。（んこーりよー。んきやーとーりよー。）

今日は十六日祭です。ごちそうを準備してきました。みなさんでお召し上がりください。

でいー、けーらし ていー うさーし こっきー とーらりら。
 さあ、みんなで手を合わせて、ごちそうをいただこう。

与 那 国
 すーや どうぬくにてい。
 ぶーる まどうん はがんき でいー。

すーや どうぬくにてい どう。うさい しくんき すんどう。
 ぶーるし うやしわれ。

今日は十六日祭です。ごちそうを準備してきました。みなさんでお召し上がりください。

でい、ぶーるし ていー うさしてい、うさい たばらりるー。
 さあ、みんなで手を合わせて、ごちそうをいただこう。

ちゅーから しちぐわち。うんけー さびら。

今日からお盆。お迎えしましょう。



旧暦の7月13日から15日までの三日間は、お盆が行われます。ごちそうをお供えて、ご先祖さまを供養する行事です。13日の初日は「うんけー（お迎え）」、14日は「なかび（中日）」、15日は「うーくい（お送り）」の日で、うちかび（あの世で使うお金）を燃やして、ご先祖さまをお見送ります。各地では、「エイサー」や「アンガマ」など、お盆ならではの催しも行われます。

ぶちらん
(仏さん)
とーとーめー
(位はい)

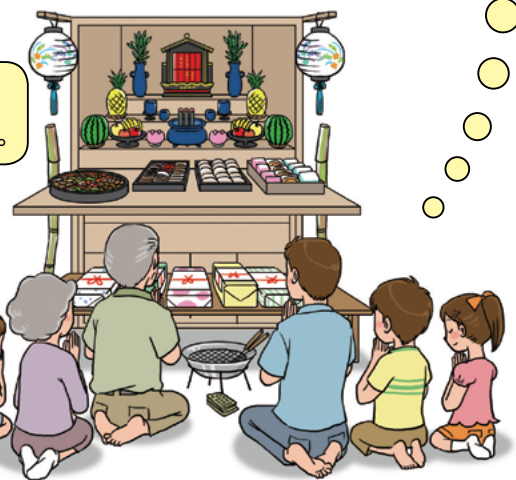


しちぐわちぬ うさぎむん うさがみそーれー。
お盆のお供え物をお召し上がりください。

うんけー さびら。
お迎えしましょう。

うさんれー さびら。
お供えたごちそうをいただきます。

うーくい さびら。
お見送りしましょう。

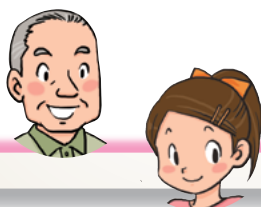


太郎くんの地域では、「エイサー」が集落内を回っています。あなたの地域では、どんなお盆行事が行われているかな。

北 部 ちゅーから しちぐわち。むけーらやー。

しちぐわちぬ うさぎむぬ
いいちやぎそーれー。
お盆のお供え物をお召し上がりください。
うんけー さーやー。
お迎えしましょう。

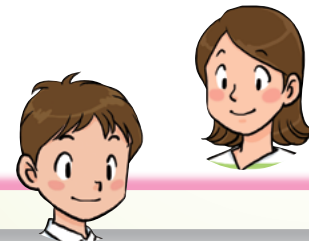
さんでー さーやー。
お供えたごちそうをいただきます。
うーくい さーやー。
お見送りしましょう。



宮 古 きゅーから しうとうがちう。んかいやー。

しうとうがちうぬ うさぎむぬー
んきぎさまち。
お盆のお供え物をお召し上がりください。
ずー、んかい。
お迎えしましょう。

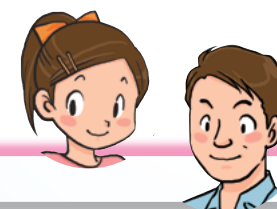
うさぎむぬー ふあー。
お供えたごちそうをいただきます。
うとーもー すー。
お供えましょう（お見送りしましょう）。



八 重 山 きゅーから そーろん んかよーら。

そーろんぬ しうこーりむぬ
おいしょーり。
お盆のお供え物をお召し上がりください。
んかよーらー。
お迎えしましょう。

すないだ むぬ（こっきー）
とーらりんどー。
お供えたごちそうをいただきます。
うくる さーなーら。
お見送りしましょう。



与 那 国 すーがら する。んかるんどう。

するぬ まっचार うさい
うやしわれ。
お盆のお供え物をお召し上がりください。
する んかいうやい。
お迎えしましょう。

まっचार うさい たばらりる。
お供えたごちそうをいただきます。
する うぐいうやい。
お見送りしましょう。



中 南 部 ちゅーや、ゐなぐちょーれーが
じゅーさんゆーえー。
ちゅらじん ゆー うちゃーとーんやー。
今日は、妹の十三祝い。きれいな着物が似合っているね。

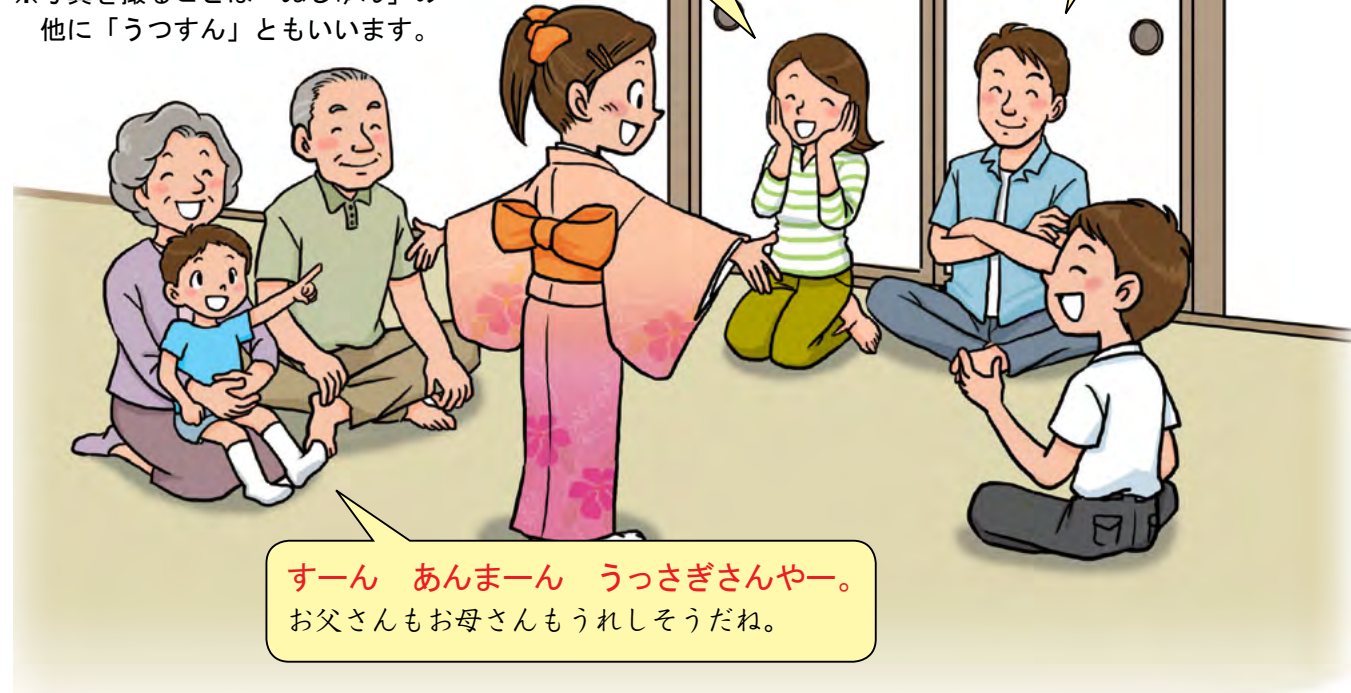


数えの十三歳を迎えると、十三祝いの行事を行います。あなたの家や学校でも、十三祝いをしたこと
でしょう。比嘉家では、太郎くんの妹の夕希さんが、十三祝いを迎えています。おしゃれをした妹はか
わいいですね。みんなも自分の十三祝いを思い出したのではないかな。

ちゅらじん うちゃーとーくとう
さしんやーかい さしん ぬじーが いか。
きれいな着物が似合っているから、
写真館へ写真を撮りに行こう。

ちゅーぬ ゆーきーや、
いっぺー ちゅらさんやー。
今日の夕希は、とてもきれいだね。

※写真を撮ることは「ぬじゅん」の
他に「うつすん」ともいいます。



すーん あんまーん うっさぎさんやー。
お父さんもお母さんもうれしそうだね。

北 部 ちゅーや ゐなぐちょーでーぬ じゅーさんゆーいえー。
ちゅらぎぬ ゆー うちゃとん。

ちゅーぬ ゆーきーや、でーじな ちゅらはんやー。
今日の夕希は、とてもきれいだね。

ちゅらぎぬぬ うちゃとくとう、写真やーけ いじ 写真 とういが いかやー。
きれいな着物が似合っているから、写真館へ写真を撮りに行こう。

ちゃーちゃーん あんまーん うっさぎさんやー。
お父さんもお母さんもうれしそうだね。

メ
モ

6 年中行事

宮 古 きゅーや うとうとうぬ じゅーさんよーいう。
かぎぎうんな ゆーどう ぱいぱい ういうじゃー。

きゅーぬ ゆーきーや ありやみーん あばらぎやー。

今日の夕希は、とてもきれいだね。

かぎぎうぬぬ ぱいーぱい ういば しゃしんやーんかい しゃしんぬ
とういうが いか。

きれいな着物が似合っているから、写真館へ写真を撮りに行こう。

あんなまい、うやまい ぷからしうきやー。

お母さんもお父さんもうれしそうだね。

八 重 山 きゅーや うとうとうぶなるぬ じゅーさんぬよい。
かいしゃーる きん にあいそー。

きゅーぬ ゆーきーや あっぱりしゃー そーらー。

今日の夕希は、とてもきれいだね。

きんぬ かいしゃーり にやーりきー しゃしん とうんな はら。

きれいな着物が似合っているから、写真館へ写真を撮りに行こう。

びげーん（あっちゃん） ぶねーん（あっぱん） さにんしゃんがさー そーらー。

お父さんもお母さんもうれしそうだね。

与 那 国 すーや うとうとうぶないぬ どうーさんぬだい。
あびやる んなにんがどう まーてい んしゃる。

すーぬ ゆーきや、あらぐー あびやんがえー。

今日の夕希は、とてもきれいだね。

あびやる んなにんが まーてい んしゃるんがら、
写真やんき 写真 とうんでい でい。

きれいな着物が似合っているから、写真館へ写真を撮りに行こう。

いやん あぶたん あらーぐ しゃなぎどう わるんがえー。

お父さんもお母さんもうれしそうだね。

<ーロメモ>

沖縄では、自分の生まれた年と同じ干支を生まれ年といいます。丑年に生まれたら、その年が自分
の生まれ年になるわけです。また、生まれ年にはお祝いをしますが、そのことを「とうしびー」とい
います。ですから、十三祝いも「とうしびー」のお祝いになるのですね。十三祝いの次は、25歳で、
そのあとは37歳、49歳、61歳、75歳、97歳になります。

たんかーゆーいえーんかい うんちけーさったん。

満一歳の誕生日に招待された。



赤ちゃんが、満一歳の誕生日を迎えると、「たんかーゆーいえー」といって、誕生日を行います。「たんかーゆーいえー」では、赤ちゃんの前にご飯やそろばん、ノートや筆などを置いて自由に手に取らせます。何を選ぶかによって将来の職業をうらないながら、家族や親せきなどで祝います。あなたは何を選んだかな。家の人に聞いてみましょう。

あきらーや めー いらぶがやー。
明は何を選ぶかな。

勝の弟 (明)
まさるー
ぬきがちょーれー

まさるーや ちゃー やたが。
勝はどうだった。

勝

(帳面)
ちょーみん

(ご飯)
むぬ

(そろばん)
するばん

(筆)
ふり

(お金)
じん

わんねー、じん とうっとーたんり。
私は、お金を取ったんだって。

あんしが、あきらーや うじらーさんやー。
しかし、明はかわいいね。

北 部 たっかゆーいえーけ ゆわっとん。



あきらや めーが とういるやー。
明は何を取るかな。
まさるや、ちゃっち げーたる。
勝は、どうだった。

わぬや じーにー とうたんでい。
私はお金を取ったんだって。
いえーすが、あきらや
ばちきりとんやー。
しかし、明はかわいいね。

ちょーめん (帳面), ふでい (筆), じーにー (お金), するばん (そろばん), めー (ご飯)

宮 古 たんかーよーいーんどう あびらいたいう。

あきらー、のーゆが いらびうがら。
明は、何を選ぶかな。
まさろー、のーしーが やたいう。
勝は、どうだった。

ばがどう じんぬ
とういうたいうていーぬ。
私はお金を取ったんだって。
あしうが、あきらー いんがなうきやー。
しかし、明はかわいいね。

ちょーみん (帳面), ふでい (筆), じん (お金),
するばん (そろばん), まいう (ご飯)

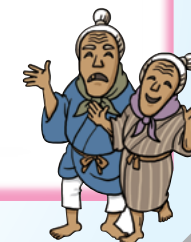


八 重 山 たんかーよいかい ちうかさりだー。

あきらーや のーどう いらぶかやー。
明は何を選ぶかな。
まさるーや のーしど うだかやー。
勝はどうだった。

ばなー じん とうったかやー。
私はお金を取ったんだって。
やすんが、あきらー あったらさーん。
しかし、明はかわいいね。

ちょーみん (帳面), ふでい (筆), じん (お金),
するばん (そろばん), づんぼん (ご飯)



与 那 国 たんかぬ だinkinき つかいらりたん。

あきらや、めーば いらぶかやー。
明は、何を選ぶかな。
まさるや、ぬんに ぶたんが。
勝は、どうだった。

あぬや でいんどう とうたるんでい。
私はお金を取ったんだって。
いるんが、あきらや んだらんえー。
しかし、明はかわいいね。

ちょーみん (帳面), ふでい (筆), でいん (お金),
するばん (そろばん), い (ご飯)



んかしんちゅぬ いくとぅば てーしちに しよー。

昔の人たちのことわざを大切にしなさい。



あわていーる なーかー よーんなー (うていちき)。

「急いでいる時こそ、ゆっくり (落ち着いて)。」急いでいるときこそ、冷静に落ち着いて行動しなさい。

・急がば回れ ・せいては事を仕損じる



くぬ ふかぬ いくとぅば。(この他のことわざ)

いくとぅばや、てーしちな むん やんろー。(ことわざは、大切なものです。)

たんめー、はんしーから ならてい んーりよー。(おじいさんや、おばあさんから習ってみようね。)

中 南 部

● いちゃりば ちょーれー。(行きあえば兄弟)

「見ず知らずの人でも縁^{えん}あって親しくなれば兄弟のようなもの。」

・そですりあうも他生の縁

● きらまー みーしが、まちげー みーらん。(慶良間は見えるが、まつ毛は見えない)

「慶良間列島は見えるが、目に最も近いまつ毛は見えない。」

・灯台もと暗し

● ぬちる たから。(命こそ宝)

「命はかけがえのない大事なものである。」

・命あつての物種^{ものだね}

● やーなれーが ふかなれー。(家での習いが、外でもそのままの習い)

「家でのしつけの悪いのは、よそでもその通り。家でのしつけは外でも自然に現れるもの。」

・氏^{うじ}より育ち

● いいーつちよー しんぐわんしん こーてい るし し。(良い人は、千貫^{せんがん}で買っても友とせよ。)

「良き友は、大金で買うほどの価値がある。」

※(お金のこと)

・持つべきものは友



むかしんちゅぬ いちえぬ くとぅや わっしていや ならんどー。

(昔の人のことわざは、忘れてはならないよ。)

北 部

● いっくわいなーる うすみじや ぬみる。(一回こそ、塩水も飲む。)

「失敗は一回で十分である。繰り返してはいけない。(潮も水も同格で、苦くて欲しくないもののたとえ)」

・前車の轍は踏まず

● むぬ すそーに しーねー、うやふぁーふじん すそーに すーすとう いいぬむぬ。

(物を粗末にしたら、親祖父母を粗末に扱うのと同じ。)

「物を粗末に扱うことは、祖先を粗末にするのと同じ。」

● かーみぬ くーよか とぅしぬ くー。(亀の甲より年の功)

「年長者の豊富な経験は、貴重で尊敬すべきものだ。」

・老いている馬は道を忘れず

● みみだい?まーぬ ちゅーくーやー。(耳が垂れた馬(おとなしそうな馬)こそ、人を噛む^か)

「温和しそうに耳を垂れている馬が、人を噛むものだ。(人は外見で判断してはいけない。)」

● あがいていだる うがみる。さがいていだや うがまん。

(上がる太陽を拝むもので、下がる太陽は拝まない。)

「明るいことにこそ、心を向けなさい。細かいことでくよくよしてはいけない。」



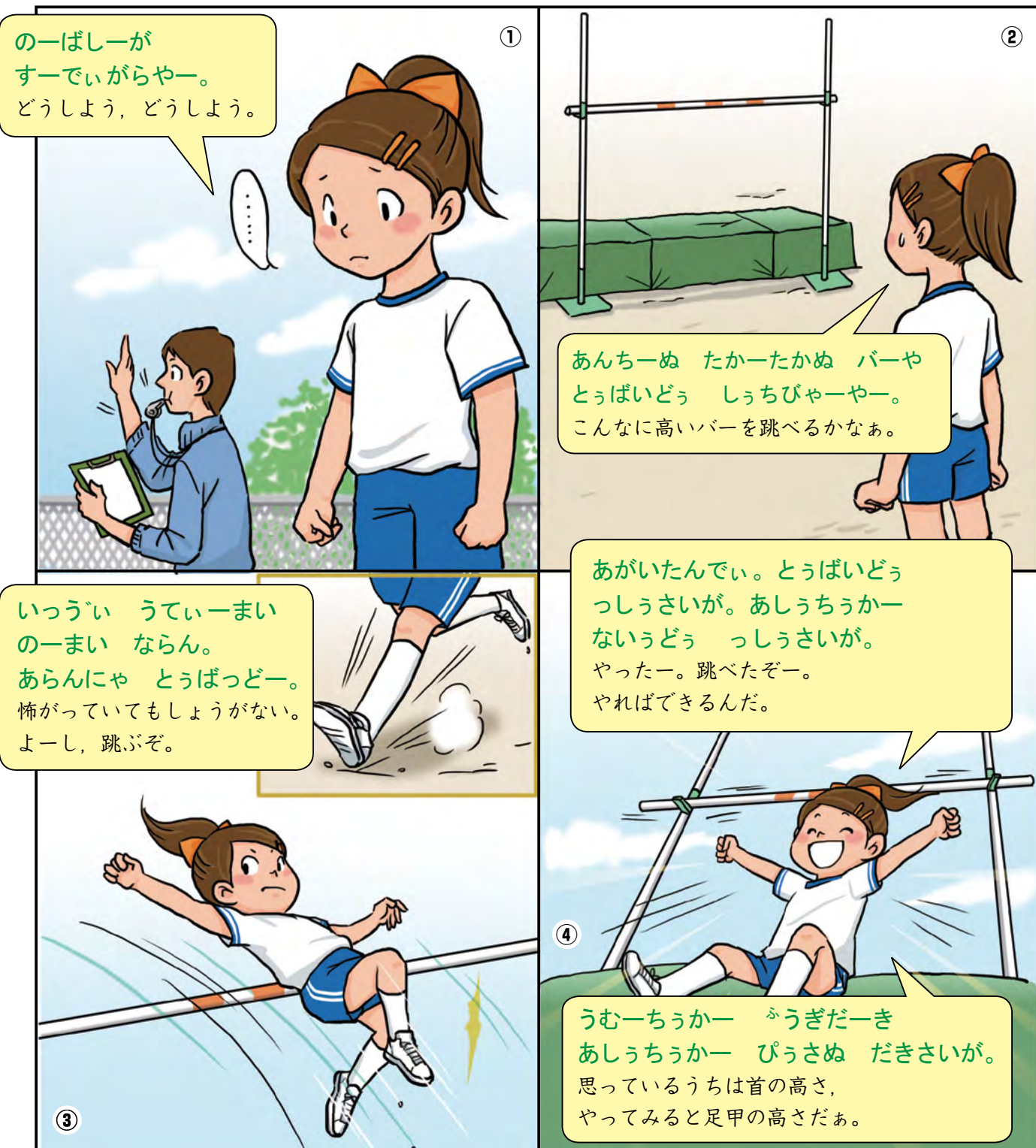
宮古 んきゃーん ぴうとうぬきゃーぬ
んきゃーんじゅくー だいじうんすー。
昔の人たちのことわざを大切にしよう。



うむーちうかー ふうぎうだき あしうちうかー ぴさだき。

思っているうちは首の高さ、やってみると足甲の高さ

※手をつける前は難しそうに見えても、実際にやってみると、案外たやすくできるものだ。



×
モ

7 ことわざ・言葉

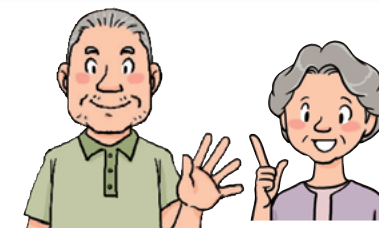
うぬ ぷかぬ んきゃーんじゅく。(この他のことわざ)

んきゃーんじゅくや、だいじうなむぬ。

(ことわざは、大切なものです。)

しゅーたー、んまたーから ならい みーる。

(おじいさんや、おばあさんから習ってみましょう。)



宮古

● ういびやー うちうんかいどう ぶりいう。

(指は内側に折れる)

「五本の指が内側に折れるように、兄弟や親戚は、いざというとき協力して、事にあたるものである。」

・血は水よりも濃し

● ぴとっだすきやー どうーだしうき。

(人助けは 自らを助く)

「他人に対する援助は、結果として自分への援助として帰ってくる。」

・情けは人のためならず

● かなっさどう あばらぎさ。

(愛故に美しい)

「いとおしい心で見れば、可愛く美しく見える。」

・あばたも笑くぼ

● たかぎーんどう かじゃー かかいう。

(高木に風はかかる)

「高い木には風が強く当たるように、優れた者は世間からとやかく言われる。」

・高木は風に折られる

・高木は風にねたまれる

● ぴうとうかたん かなう むぬぬどう、むむかたん かのー。

(一芸にかなう者が、百芸にかなう)

「一つの芸や技に秀でるものは、他の分野でも能力を発揮するものである。」

● やまばとー どうーぬ ふうちうんかいどう ふうーいいう。

(山鳩は自分の口に食われてる)

「余計なことを言わなければ、災いを招くことはない。」

・キジも鳴かずば撃たれまい

・口は災いの元



八重山 むかす ぴうっだーぬ ゆんぐとうや あたらさ しーよー。 昔の人たちのことわざを大切にしよう。



いー どうしう むちう たたみぬ ぴーりう ふむん、やな どうしう
むちうかー ちうななー ぱくん。
「善い友だちと仲良くすると畳の縁を踏む、悪い友だちと結ぶと縄目をかけられる（捕まること）。」

たろー まーずん としょかんかい
はらぬ。きゅーぬ しゅくだい
まーずん さーでいー。
太郎。一緒に図書館行かんか。今日の宿題、
一緒にやろうぜ。



たろーとう げーむせんたーかい
はる かたみ しーすんが。
しゅくだいや あったらむぬ やりき、
くとうぱり くいー。
太郎たちとゲームセンターへ行く約束してるん
だけど。宿題が大事だから、断ってくるね。



あんじー。かんじー かんがいー
みしゃーるすず。ならーしひやーり
にふあいどー。
そうか。こんな風に考えればいいのか。
教えてくれてありがとう。



いー どうしう むちうかー たたみぬ
ぴーりう ふむん、やな どうしう
むちうかー ちうななー ぱくん。
本当に、「善い友と親しく交わると畳の上で良い暮らし
ができ、悪い友と交わると、縄目をかけられる。」だね。



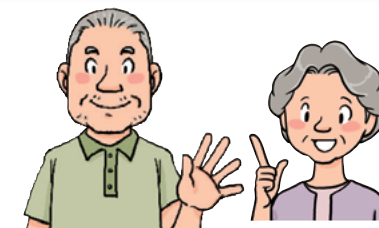
メ
モ

7 ことわざ・言葉

うぬふかぬ むかしうむに。(この他のことわざ)

むかしうむに あたらさーる むぬ。
(ことわざは、大切なものです。) 注) むかしうむに(ことわざ)

うしゅまい んみーから ならい みーら。
(おじいさんや、おばあさんから習ってみましょう。)



八重山

●うやぬくいやー かんぬくいで うむやー ゆー しうきよー。
(親の声は神の声と思ってよく聞きなさいよ。)

●ゆくしむねー すーかー ぬすとるぬ はじまるんどー。
(嘘をつくどろぼう泥棒が始まるぞ。)

「うそをつくことが、やがては盗みにつながっていく。うそをつくことは、泥棒と同じように悪い
ことである。」

●かたちえー にばん きうむぬどう だいいちう。
(形は二番、^{きも}肝<心>が第一。)

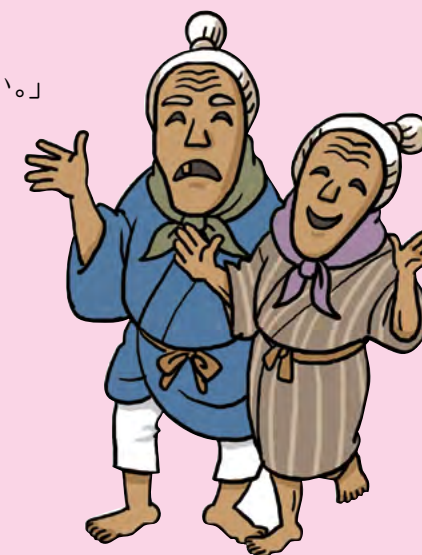
●いじえーる むねーや ぬまるぬ。
(言った言葉はのまれぬ)
「口から出した言葉は、再び口の中へのみ込むことはできない。」
・口は災いのもと
・後悔先に立たず

●ふちうや やふぬ むとう。
(口は災いのもと。)

●ぱりや ぬまるぬ。
(針はのまれぬ)
「小さいからといって、あなどってはいけない。」
・山椒は粒でもピリリと辛い

●ふしえー ぴとうぬ まりじょー。
(習癖は、人の生まれ性分)
「人のくせというものは生まれつきのもので、年を取っても変わらない。」
・三つ子の魂百まで

●もーぎぬ たちうかー あーみぬ きんどー。
(虹の立っているところでは、雨が降っている)
「何か物事が発生するときには、必ず物事が起きる理由がある。」



与那国 んかち つとうんたぬ むぬぬたていや
あたらきりよー。
昔の人たちのことわざを大切にしよう。



どうとうまりる うゆびぬ なーまら あるんに、つとうにや なーなたが あいどう ぶる。
「一晩に生まれた指に長い短いがあるように、人には、人それぞれの性格がある。」

・十人十色



×
モ

7 ことわざ・言葉

うぬふがぬ むぬぬたてい。 (この他のことわざ)

むぬぬたていや、あたらる むぬどー。 (ことわざは、大切なものです。)

あさ、あぶんたがら ならいんにゆー。 (おじいさんや、おばあさんから習ってみましょう。)

与那国

●あとうなる むぬんがどう、うぶいゆ ふ。

(後になる者が、大きな魚を食べる)

「人に先をゆずって最後に残った人が、大きな魚を食べることがあるように、人に先をゆずれば、自分に福がやってくる。」

・残り物には福がある。

●いーむぬとう ちりたや いーならいき、だなむぬとう ちりがらや、だないどう きる。

(良い人と付き合ったら良い習慣が身に付き、悪い人と付き合えば、悪い習慣が身に付く)

「交際する相手によって、人は感化されてしまう。」

・朱に交われば赤くなる。

●うやんが うむんに あがみんが うまぬん。

(親が思っているようには、子どもは思っていない)

「親がどれだけの愛情を注いでも、子どもには伝わりにくいものである。」

・親の心、子知らず。

●ていん あがみがらや、かでい くんでいどう ある。

(空が赤くなってくると、台風がやってくる)

「天気のことわざ」

●みーみぬ まいぬどう、んたく。

(実らない稲の穂が頭を立てる)

「礼儀を知らなくてはいけない。」

・実るほど頭を垂れる稲穂かな。

●きーぬ まんがいや つかりるが つとうぬ まんがいや つかにぬん。

(木の曲がりには使えるが、人の性格の曲がった奴はどこにも使えない)

「もって生まれた性格や性質は、年を取っても変わることはない。」

・三つ子の魂百まで

●だーならいどう ふがならい。

(家ででの習いが、外での習い)

●はいない にちない、どうったい かつたい。

(南か北か、どちらかわからない)

「決断力がなく、いい加減な人を言い表すことば。」



うまんちゅぬ くくるむち ちたゆる くとぅば。
みんなの気持ちを伝える言葉。



しまくとうばには、私たちの気持ちを表す言葉が数多くあります。中でも「ちむ」は、心の意味で多く使われており、沖縄の人々の優しさ^{やさ}を表しています。「ちむ」のつく言葉には、どのようなものがあるか調べてみましょう。

ちむぢゅらさん。
心が清らか。



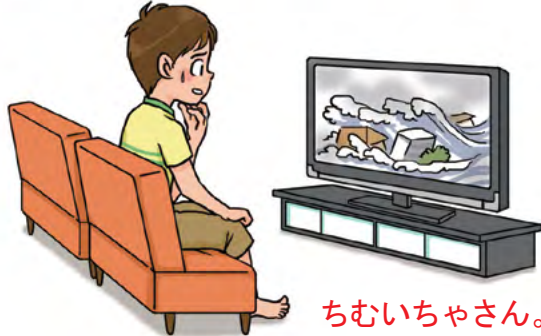
ちむがなさん。
心からかわいく思う。



ちむふじゅん。
心が満ち足りる。



ちむいちゃさん。
心が痛む、かわいそう。



※他にも「ちむしからーさん（心さびしい）」「ちむやむん（心が痛む）」「ちむわさわさーすん（胸さわぎがする、心が浮き立つ）」「ちむのーいん（機嫌が直る）」など、たくさんあります。

北 部 わね むんどぅりぬ くくるむち
ちてーる くとぅわ。



きむぢゅらはん。
心が清らか。

きむがなはん。
心からかわいく思う。

きむ ふいじゅん。
心が満ち足りる。

きむ やみん。きむぐろはん。
心が痛む、かわいそう。

きむしからはん。
心さびしい。

きむ さーさすん。
胸騒ぎがする。

きむ のーいん。
機嫌が直る。

宮 古 ばんたがー んーなが
きうむ あらーしう くとぅば。



きうむ やば。 心やさしい。

きうむぬ すくから
かなしうっさていどう うむいう。
心からかわいく思う。

きうむ んていーんてい。

心が満ち足りる。

きうむぬどう やむ。ちうんだらーしう。
心が痛む。かわいそう。

きうむさがい。

（きうむ さびうしうむぬ）

心さびしい。

きうむ やむ。 心が痛む。

んみ とうとうみきう。

胸騒ぎがする。

きうむ のーいう。

機嫌が直る。

八 重 山 ばがだー けーらぬ
うむいゆ つたいる くとぅば。



きうむぬ やふあさーん。

心やさしい。

きうむから かなさーん。

心からかわいく思う。

きうむ ふぎるん。 心が満ち足りる。

きうむんぐりしゃーん。

かわいそうである。

きうむしかさーん。

心さびしい。

きうむぬ やむん。 心が痛む。

きうむあーりう、きうむさわぎう。

胸騒ぎがする。

きうむ のーすん。

機嫌を直す。

与 那 国 ばんた おーるぬ くぐるむてい
とぅんきる くとぅば。



くぐる なだやしく。 心やさしい。

くぐるがら あたらき うむい。

心からかわいく思う。

ちむ んてい たらし。

心が満ち足りる。

ちむ だーみ、ちむりさ。

心が痛む、かわいそう。

ちむ さびつつあー。

心さびしい。

ちむ だーみ。 心が痛む。

ちむ ささらんてい。

胸さわぎがする。

きんがい ぬい。

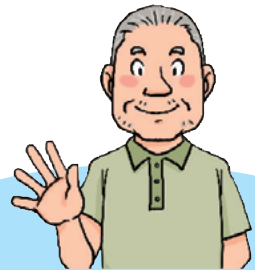
機嫌が直る。

うた ちゅくてい んーら。 歌（琉歌）を作ってみよう。



ここで、うたとは琉歌のことをいいます。琉歌とは8・8・8・6音のリズムを持った歌のことで、古くから沖縄の人々に親しまれ、歌い継がれてきました。

わったー しまんかい ちたーつとーる うた しらびてい んーら。
私たちの故郷に伝わっている歌（琉歌）を調べてみよう。



例えば、小さいころによく歌っていた「ていんさぐの花」の歌詞も琉歌で、8・8・8・6音の形式になっています。

ていんさぐぬ はなや（8音） ちみさちに すみてい（8音）

うやの ゆしぐとうや（8音） ちむに すみり（6音）

みなさんも、自分の地域のことを歌っている琉歌を調べて、自分でも作ってみませんか。



まじえー うたぬ 碑（ふい） とうめーてい んーら。
まずは琉歌碑を探してみよう。



北部（久志） うた とうくてい んだー。



いが しまけ ぬくとぬ うた しらびてい んだー。
私たちの故郷に伝わる歌（琉歌）を調べてみましょう。



まじや、うたぬ ふいー とうめーてい んだー。
まずは、歌の碑文を探してみよう。



<一口メモ>



琉歌とは、ヤマトで作られる5・7・5・7・7音のリズムで作られる和歌（短歌）に対して呼ばれる、沖縄独特の歌の形です。基本的には8・8・8・6音のリズムで歌われており、サンパチロクと呼ばれます。8音というのは、なじみがないように思われますが、しまくとうばだと、しっくりくるリズムなのです。また、琉歌は単に歌をよむだけではなく、三線などに合わせたメロディーに乗せて歌われるのが大きな特徴です。

古典音楽や民謡なども、この琉歌のリズムで歌われることが多いので、身近な歌を調べて琉歌のリズムを楽しんでみてはいかがでしょうか。りっか うた ちゅくてい んーら。（さあ、琉歌を作ってみよう。）

北部

いじゆぬ きぬ はなや あん ちゅらさ さちゆい
（伊集の木の花や あんきよらさ 咲きゆり）

わぬん いじゆ やとってい ましら さかな
（わぬも伊集のやとて 真白咲かな）

～読み人知らず～



意） 伊集の木の花は、あんなにもきれいに咲いている。
私も伊集の木の花のように、真っ白にきれいに咲きたいものだ。

中部

ふばな さち でいりば ちり ふいじん つかぬ
（穂花咲き出れば ちりひじもつかぬ）

しらちやにや なびち あぶし まくら
（白ちゃねやなびき あぶしまくら）

～赤犬子～



意） 稲の穂花が咲き出すと、ちりや泥一つつかずによく育ち、豊かに実った稲穂は、大粒の実を支えきれずにあぜを枕（まくら）にしている。赤犬子は約400年前の人で、三線で歌を始めた人だといわれている。彼は三線もうまく美声の持ち主でもあり、予祝（よしゅく）（願い）の歌を得意とし、各地を渡り歩いてうたったといわれている。この琉歌も稲の豊作を願った予祝の歌なのである。

南部

あしみじゆ ながち はたらちゆる ひとつぬ
（汗水流ち 働ちゆる人ぬ）

くくる うりしさを ゆすぬ しゆみ
（心 うれしさを 他所ぬ 知ゆみ）

～中本稔～



意） 汗水を流しなら、一生けんめい働く人の、その心に感じる喜びは、働かない者にはわからないだろう。この歌は1928年、沖縄県が働く喜びを詞を募集したところ、具志頭郵便局長であった中本稔の歌詞が当選したものである。

ばんたが しうまぬ あーぐう
まーちうき つっふあ。

私たちの故郷の歌を、一緒に作りましょう。



ばんたが しうまん んきやーんから あいう あーぐう しらびみー。
私たちの故郷に伝わる歌を調べてみよう。



まっざー あーぐぬ ひぶぬ とみみー。
まずは、歌の碑文を探してみよう。



<なりやまあやぐ>

サー なりやまや なりていぬ なりやま
すうみやまや すうみていぬ すうみやま
イラユマーン サーヤーヌ すみていぬ すみやま

宮古を代表する民謡のひとつ「なりやまあやぐ」の一番の歌詞です。
その意は、「慣れているヤマへ行っても染まって（油断）してはいけませんよ」と教訓的な歌詞となっています。



ばがーしうま うた まーぞん ちゅくららー。
私たちの故郷の歌を、一緒に作りましょう。



ばがーしうま うた
しらびららー。
私たちの故郷に伝わる歌を
調べてみましょう。

まじう うた ぴむん
とめーむら。
まずは、歌の碑文を探して
みましょう。



<赤馬節>

赤馬ぬ いらずだ （赤馬の、ああ うらやましいことよ）
足四ちゃぬ どうきにやく （足四ちゃ（赤馬）の冥加なことよ）

生りるかい 赤馬 （生まれる甲斐ある 赤馬よ）
産でいるかい 足四ちゃ （育てる甲斐のある 赤馬よ）

沖縄主に 望まれ （琉球国王に望まれ）
主ぬ前に 見のうされ （琉球国主のお召馬になった）

いらさにしゃ 今日ぬ日 （ああ よろこばしい 今日の日よ）
（ヒアールガヒ）

どきさにしゃくかに日 （とてもうれしい 黄金の日よ）
（ヒアールガヒ）

羽生いるだきだら （羽が生えて飛び立つくらい うれしいよ）



ばんた ちまぬ うた、まどうん つくいんだぎ。
私たちの故郷の歌を、一緒に作りましょう。



ばんた ちまに ちたわる うた ちらびんぬー。
私たちの故郷に伝わる歌を調べてみましょう。



までいや、うたぬ ひむん みきんぬやー。
まずは、歌の碑文を探してみよう。

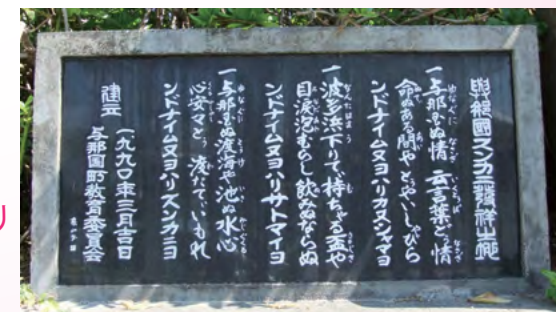


<どなんスンカニ>

一. ゆなぐにぬ なさぎ いくとぅばどう なさぎ
ぬていぬ ある あいや とぅやい しゃびら
（与那国の情 言う言葉が情
命のある間はおつきあいしましょう）

三. なんたはま うりてい むちやる さかじきや
みなだ あわ むらし ぬみぬ ならぬ
（波多浜下りて 持った盃は
涙泡盛らし 呑むことが出来ない）

二. ゆなぐにぬ とぅけや いきぬ みじぐる
くくうる やしやしとう わたてい いもり
（与那国の渡海は池の水心
心安々と渡っていらっしやい）



<一口メモ>



宮古や八重山・与那国の三つの地域には、多くの優れた歌が歌い継がれています。しかし、どちらも同じ分野の歌が伝わっているのではなく、それぞれに特徴があります。

宮古は「歴史の島・伝説の島」と呼ばれていることからわかるように、歴史的な事実や事件を、ありのままに壮大に歌い上げた歌謡が特徴です。

八重山・与那国は、「詩の国・歌の国」と呼ばれているように、たくさんの歌がよまれ、歌い継がれてきました。その中には、自然を大らかに歌い上げているものや、恋心など自分の感情を素直に歌い表したもの、歴史的なことを歌ったものなどがあります。

自分たちのしまくとうばで、自分たちのシマの歌を味わってみることもいいでしょう。



↑とうがにあやぐ歌碑（宮古）

琉歌とは、琉球の歌または、琉球歌謡の略語で、うたわれる形式によって長歌、短歌、仲風、つらねなどに分けることができます。その中で、もっとも好まれた形式が短歌で、普通に琉歌という場合は、この短歌を指していると考えてよいでしょう。

短歌は、8・8・8・6音の30音形式になっています。例えば、小さいころによく歌っていた「ていんさぐの花」の歌詞も琉歌で、8・8・8・6音の形式になっています。

ていんさぐぬ はなや（8音） ちみさちに すみてい（8音）

うやの ゆしぐとうや（8音） ちむに すみり（6音）

琉歌は、昔の人々から今の人々に受け継がれ、現在でもさかんにうたわれています。

ここでは、歌碑に刻まれるなど、人々に親しまれてきた琉歌をいくつか紹介します。



↑ 恩納ナベの琉歌が刻まれた歌碑

うんなだき あがた さとが つんまりじま

（恩納岳あがた 里が生まれ島）

むいん うしぬきてい くがた なさな

（もりもおしのけて こがたなさな）

～恩納ナベ～

意） 恩納岳の向こう側は、いとしいあなたの生まれた村である。山をおしのけてその村をこちら側に引き寄せたい。恋をする女性の恋人を想う激しい心が、恩納岳という不動の自然をも動かしそうな力で迫ってくる感じが感じとれる。

なみぬ くいん とまり かじぬ くいん とまり

（波の声も止まれ 風の声も止まれ）

しゅゆい ていんじゃなし みうんち をがま

（首里天がなし みおんき拝ま）

～恩納ナベ～

意） 波の声も止まれ、風の声も止まれ、すべてのものよ静まれ。さあ、みんなして国王をお迎えし、拝もうではないか。万座毛に立ち寄った琉球国王をたたえた歌である。岸壁に砕ける波の音に止まれと命じ、松にさわぐ風に止まれと命じる。作者の気迫が感じられる。



↑ 恩納ナベの琉歌が刻まれた万座毛の歌碑（裏に歌詞が刻まれている）

うんな まついしたに ちじぬ

ふえぬ たちゆし

（恩納松下に 禁止の碑の立ちゆす）

くい しぬぶまでいぬ ちじや ねさみ

（恋忍ぶまでの 禁止やないさめ）

～恩納ナベ～

意） 恩納番所前に松の木があり、その下に禁止令を書いた高札が立っていることよ。まさか、恋をするなという禁止はないだろう。農村の希少な娯楽であった伝統的な遊び（シヌグ）が、首里王府によって禁止された事に対して、自由ほんぼうなナベが人間の自然のあらわれとしての恋愛を禁止するものではないと嘆いた歌である。

<一口メモ> ー女流歌人「恩納ナベ」と「よしや」ー

数多い歌人の中でも、たくさんの人々に親しまれている「恩納ナベ」と「よしや」は、琉歌の二大女流歌人といわれています。

恩納ナベは、18世紀の前半、尚敬王時代（1713～51年）の人だといわれている伝説の歌人で、今の恩納村の恩納岳のふもとに生まれたといわれています。

よしやは、1650年、今の読谷村に生まれ1668年に没したといわれている伝説の歌人で、短い18年の生涯であったと伝わっています。幼くして遊郭に身売りされますが、その境遇の中で和歌の影響を受けたすぐれた恋の歌を多く残しました。

恩納ナベの歌には対象に強く働きかけるほんぼうさが感じられ、よしやの歌には恋の歌に限らず、悲しく切ない気持ちをこめた歌が多く見られます。



うらむ ひじゃばしや なさき ねんふいとうぬ

（うらむ比謝橋や 情けない人ぬ）

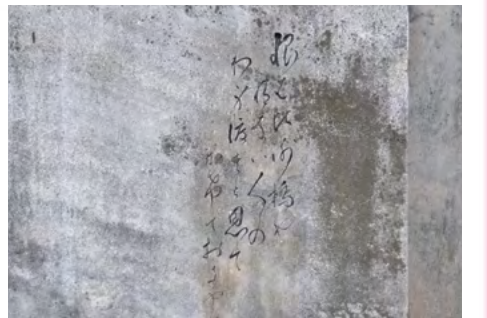
わん わたさ とむてい かきてい うちやら

（わぬ渡さともて かけておきやら）

～よしや～

意） うらめしい比謝橋は、私を渡そうと思って、情けを知らない人がかけておいたのだろうか。

「うらむひじゃばしや わんわたさとうむてい なさけねんふいとうぬ かきていうちやら」とも歌われています。



うゆばらぬ とみば うむいます かがみ

（及ばらぬとめば 思ひ増す鏡）

かじやちよん うちゆち をがみ ぶしやぬ

（影やちやうもうつつ 拝みぼしやの）

～よしや～

意） どうてい及ばない身の恋と思うと、かえって思いがつのってくる。せめて、あの人の面影だけでも鏡に映して、お姿を見たい。伝説では、よしやの恋の相手は士族で正妻がいる人で、遊女であるよしやとは身分が違いすぎたために、及ばぬ恋のはかなさとの想いをあらわした歌となっている。

うどうるくな あささ

くわゆんでい や あらん

（おどろくなあささ 食はゆんでやあられ）

ちむがなしや あていどう

だちや んちやる

（肝かなしやあてど 抱きや見ちやる）

～よしや～

意） 蝉よ鳴いてくれるな、お前を取って食おうというのではない、心底かわいいと想うから手に取って抱いてみただけだよ。

人間によってどうにでもされる弱い存在の蝉に、悲しい境遇の自分を見てしまう作者の気持ちが読み取れる歌である。よしやが蝉に呼びかける声には切ないものが感じられる。

琉歌は、国王や政治家、文学者、遊女、農民にいたるまで、いろいろな階層の人々がよみ、うたい親しんでいます。うたわれている内容も様々で、政治家としての信念をよみ込んだ歌。恋の歌もあれば、自分ではどうにもならない身上を嘆いた歌もあります。

他にも、豊作を祈ったり、人々の願いを歌にこめるなど、人々の心の中からにじみ出てきた心情が、そのまま琉歌の中にうたいこめられています。

ふみらりん しかん すしらりん しかん

(ほめられも好かぬ そしられも好かぬ)

うちゆ なたやしく わたいぶしやぬ

(浮世なたやすく 渡りばしやの)

～名護親方龍文～

意) ほめられることも好まない。悪く言われることもさげたい。
人生はただ平穏無事に過ごしたいものだ。

名護親方(1663～1734年)は、唐名を程順則といった。儒教を通して教育の普及に力を尽くし、品位と徳が高かったので、名護聖人と呼ばれた。すぐれた人物の人生上の一つの態度として、次の蔡温の歌とよく比較され論じられる。



蔡温が描かれた切手→



ふまり すしらりや ゆぬなかぬ ならい

(ほまれそしられや 世の中の習ひ)

さたん ねん むぬぬ ぬ やく たちゆが

(沙汰もないぬ者の 何役立ちゆが)

～具志頭親方文若～

意) ほめられることや悪口を言われることは、世間ではよくあることで気にすることはない。世に取りざたされることもない人が、どうして世の中の役に立つことが出来るようか。

具志頭親方(1682～1761年)は、唐名を蔡温といい、尚敬王の時代の三司官として政治や経済・産業に大きな力を発揮した。蔡温と程順則は同じ時代に活躍した人物だが、その時代の琉球は薩摩の支配下にあり、財政的に苦しい時代であった。同時代に生きた二人の性格が対照的であるのがおもしろい歌である。

なぐぬ うふがにく

(名護の大兼久)

うま はらち いしよしや

(馬走らち いしよしや)

ふに はらち いしよしや

(舟はうち いしよしや)

わ うらどうまい

(わ浦泊)

意) 名護の大兼久にある馬場で、馬を走らせるうれしさよ。

名護の海で、舟を浮かべるこのうれしさよ。

※名護の人々が、馬を走らせたり、舟で遊んだりすることの喜びをあらわしている歌である。



きゆぬ ふくらしやや なうにじゃな たている

(今日のほこらしやや なをにぎやなたてる)

ちぶでい をる はなぬ ちゆ ちやたぐと

(つぼでをる花の 露きやたごと)

～読み人知らず～

意) 今日のうれしさを何にたとえようか。まるでつぼんでいる花が露に出会い、開花する時のよろこびそのものだ。

この歌では、花が露と出会うことによって、開花することを最上のよろこびとして、たとえに用いている。露が花にかかる清らかな姿への感動も素朴なよろこびに満ちている。「かぎやで風」の音曲にのせて、祝い事一般においてうたわれる。



じゃじち いたびしに うちやい ふいく なみぬ

(謝敷板干瀬に うちやり引く波の)

じゃじち みやらびぬ みわれ はぐち

(謝敷めやらべの 目笑ひ齒茎)

～読み人知らず～

意) 謝敷の海岸の板干瀬に寄せたり引いたりしている波は、謝敷の娘たちが笑いざわめいているときの口元の、あの白い歯ならびを想わせる。

謝敷(国頭村)の景観の美しさをいうと同時に、村の娘たちの美しさもたたえた、いわば土地ぼめの歌である。そこには自然と一体となった精神を見ることが出来る。



からや ちじ ぬぶてい まふえ なんかてい みりば

(瓦屋つちのぼて 真南向かて見れば)

しまぬらどう みゆる さとや みらん

(島の浦ど見ゆる 里や見らぬ)

～読み人知らず～

意) 瓦屋(瓦を焼く地域に対する呼称)の丘の上に登って、南の方を見ると、村の風景が見えるだけで、いとしい人の姿は見えない。朝鮮人の陶工が帰化して瓦製造をしたとき、夫がいる美女を見初め妻とした。無理に引きさかれた女は、故郷の夫を想いこの歌を読んだといわれている。



<一口メモ>

－読み人知らず－

琉歌の作者としては、読み人知らずとなっているものが圧倒的に多く、『琉歌全集』には3000首の琉歌が収録されていますが、そのうち作者が明記されているものは1315首で、300人ほどの作者がいたことが分かっているとのことです。

一般的に、読み人知らずの歌は風土性が豊かでおおらかで素朴であるのに対し、士族の歌は、観念的、技巧的で和歌文学の影響が多く見られる歌が多いといわれます。



「走れめろすー」な一ふあくとうばさーに 勝ちーね。

『走れメロス』を那覇言葉で書いてみると。



みなさんが、授業で使う教科書。その教科書に収録されている作品もしまくとうばで表現することができます。このページでは、ずっと以前からみなさんに親しまれている『走れメロス』をしまくとうばで表現してみました。教科書に掲載されている原文と引き合わせて、しまくとうばならではの世界を楽しんでみましょう。

めろそー れーじな わじとーん。かなじ、あぬ 邪知暴虐ぬ^{じゃちぼうぎやく} をー
とうっているきらんとー ならんり うみちちゃん。めろすねー せいじえー わからん。
めろそー、むらぬ 牧人^{ぼくじん}る やる。笛ふち、ひちじとう あしろーてい くらちよーたん。
やしが 邪悪んかいてーしてー、ふかぬちゅやかー れーじな 敏感^{びんかん}やたん。

メロスは激怒した。必ず、かの邪知暴虐の王を除かねばならぬと決意した。メロスには政治がわからぬ。メロスは、村の牧人である。笛を吹き、羊と遊んで暮らしてきた。けれども邪悪に対しては、人一倍に敏感であった。

ふいちゅいぬ みなぐわらび、あかさるマント めろすんかい ぬしきたん。
めろそー とうぬーまぬー。いいーるしえー ちー ちかさーに ならーちゃん。
「めろす、[?]やーや、まるはらか えーさに。ふえーく うぬマント ちーしえー まし。
くぬ すーらさる みなぐわらべー、めろすぬ はらか、んーなんかい んーらりーしえー、
いっぺー はじかさんり うむたん。」いじじゅーや じこー あかじらーなたんり。

ひとりの少女が、緋のマントをメロスにささげた。メロスはまごついた。良き友は、気を利かせて教えてやった。

「メロス、君は、真っ裸じゃないか。早くそのマントを着るがいい。このかわいい娘さんは、メロスの裸体を、皆に見られるのが、たまらなくくやしいのだ。」勇者は、ひどく赤面した。

太宰治著『走れメロス』青空文庫参考

北 部 『はしれメロス』くしくとうわち 勝ち んだー。

メロスや でーじな わじたん。かなどう、あぬ 邪知暴虐ぬ 王ぬ ぬち
とうらんなね ならんでいち きみたん。メロスや 政治や わからん。メロスや、
村ぬ 牧人 いえーたん。ふあんそー ふち、羊とう あすでい くらち [?]ちゃん。
いえーすが、邪悪にちきていや ちゅーいちべー 敏感 いえーたん。

ちゅいぬ みなぐわらぬ あかぬ マントー メロスけ さしいじゃちゃん。
メロスや うどうるちゃん。どうしや きー ちかてい ならーちゃん。
「メロス、[?]やーや、まるばい しちょん。ふえーく マントー きれー。うぬ
ちゅらはぬ みなぐんぐわや メロスぬ まるばい むぬけ みらりすが、
でーじな ふあどうこはん。」勇者や でーじな あかどうら なたん。

宮 古 「走れメロス」っう みやーくふうちっし かき みーちうかー。

めろっさ んにや ばたー。ふうさりゅーたい。かならず、かぬ やなざいぴう
とう だまがらす おーゆばー、ふか なさだかー ならんてい きみたいう。
めろすんな せいじやー すっさいん。めろすっさ さとうぬ ぼくじんどう やいう。
ぴーや ふうき ぴっとう あすぴいう くらしどう きうしうたいう。あしうがどう
やなざい ぐとうんかいや ぴうとうぬ ばいまい かんずーむぬどう やたいう。

たうきやーぬ みどうんやらびぬどう、あかーあかぬ まんとうう めろすんかい
うさぎ とらすたいう。めろすっさ どうまっづいぎいたいう。ぞー どうっさ、しよーつ
つあまーり ならーし とうらしうたいう。「めろす、つうあー、あかばだかん なり
どう ういうっさあらんな。ぴやーまり、うぬ まんとうう きし。うぬ あばらぎみ
どうん つうああ、めろすぬ ばだこー んーなん みーらいすーどう ありやーみー
ん んぞーなむぬていどう うむい ういうさい。」ぱていむぬー。
んにや みばなー あかーあかしー きいむぐりーぐりん なり うたいう。

八 重 山 「走れメロス」しうまむにし かきみょーら

めろすや くんじょーくれー。やでーん あぬ ばたふさりむんゆ おー
ぬきなすんで きめーだ。めろすや、政治や しいさぬ。めろすーや、むらぬ
牧人どう やりき。ぴーふき、ぴっとう あさび くらしだ。やすんが
やなむぬ かいや たろーやかん かんばいしゃーだ。

ぴとうーりぬ みーどうなーぬ、あかまんと めろすかい おいすだー。めろすや
ざまどうり。いー どうすおーや、きーきかし あんくた。
「めろす、わなー、ばだがー あらんば。ペーぐ まんと きすそー ます。くぬ
かなさーる みーどうなーや、めろすぬ ばだがーゆ、むーるかい みらりすどう、
のーやかん、くちさーる。」ゆうじゃや でーじう あかうむてい すん。

与 那 国 『走れメロスー』どうなんむぬいし かていん あしや。

めろすや にぐらるた くんどうんでいぶたん。かなーでい、かぬー 邪知暴虐ぬ
おーや とうい [?]かっていらぬとう ならぬんでい、ちむに きみやん。
めろすや 政治や ばがらぬん。めろすや、むらぬ 牧人どう あたる。
ふいば [?]ていー 羊とうどう あんぴー くらし したる いるんが、邪悪んき
たいしていや [?]とうーぬ ばい びんかんどー あたる。

[?]とういぬ みぬんがあがみていんが、あかぬ マントー、めろすんき さしんだたん。
めろすや とうまどういきたん。いーどうちや、きー きかしてい、[?]たみとうらたん。
「めろす、んだや まるはだか あらぬない。はやぐ うぬ マントー ちえー。うぬ んだら
る みぬんがあがみていや、めろすぬ まるはだか むーるに んなりるんすんがどう、
ぬーかん だんさる。」勇者や、しかっとう あかちら なたん。

な一ふあくとうば ちかてい んーら。

那覇言葉を使ってみよう。

これまで、いろいろなしまくとうばの使い方をみてきました。でも、しまくとうばは、実際に使ってみなければ、身に付きません。そこで、これまで学んできたしまくとうばを使って、実際にしまくとうばを使ってみませんか。

まずは、自己紹介から始めてみましょう。

わんねー な一ふあ たろう やいびーん。
ちゅーがっこーぬ ににんしー やいびーん。
私は、那覇太郎です。中学校の2年生です。

ぬーがな あびてい まーに。
何か話してごらん。

ちゅーや いいー つわーちち やぐとぅ まじゅーん
あしびーが いか。
今日は良い天気なので、一緒に遊びに行こう。

ちゅーや あみ ふとーぐとぅ、まじゅーん びんちよー さな。
わんにんかいん、な一ふあくとうば ならーち とぅらさに。
今日は雨が降っているから、一緒に勉強しよう。
私にも那覇言葉を教えてちょうだい。



北 部 くしぬくとうわ とぅかてい んだー。

わー なーや くしたろー。ちゅーがっこー2年生。
私の名前は久志太郎です。中学校2年生です。

ぬーげら ふあなし しち んでー。
何か話してごらん。

ちゅーや いいー つわーとぅき いえーくとう、まんंना あすゐが いかー。
きょうは良い天気なので、一緒に遊びに行こう。

ちゅーや あみ ふとくとう、まんंना べんきよー さー。
きょうは雨が降っているから、一緒に勉強しよう。

くしくとうわ ならーち とぅらしえー。
久志言葉を教えてちょうだい。

宮 古 みゃーくふうちう つかいみー。

ばがな一や みゃーく たるー。ちゅーがっこーににんしー。

私の名前は宮古太郎です。中学校の2年生です。

のーがら一ゆ ばなし みーる。何か話してごらん。

きゅーや かぎ わーちうきう やーば まーちうき あすぴうが ずー。
今日は良い天気なので、一緒に遊びに行こう。

きゅーや あみぬ つふい ういば まーちうき べんきよーすー。
きょうは雨が降っているから、一緒に勉強しよう。

みゃーくふうちう ならーしう かいーる。
宮古言葉を教えてちょうだい。

八 重 山 しゅまむに いじみやーむー。

ばー なーや いしがき たろーゆー。ちゅーがっこーにねんしえいゆー。

私の名前は石垣太郎です。中学校の2年生です。

のーんがさ いじ みやーみーり (いじみーり)。
何か話してごらん。

きゅーや おーつき かいしゃーりき まーずん あさびな はら。
今日は良い天気なので、一緒に遊びに行こう。

きゅーや あーみぬ ふいりき まーずん びんきよー さー。
今日は雨が降っているから、一緒に勉強しよう。

しゅまーむに ならーし ひーりや。八重山言葉を教えてちょうだい。

与 那 国 ちまむぬい つかいんぬー。

あんがな一や どうなんたる一ゆ。ちゅがつくぬ 2にんしどぅ ない ぶる。

私の名前は与那国太郎です。中学校の2年生です。

ぬー あるばん はなしきー んにに。
何か話してごらん。

すーや いー わしきどぅ ありやー、まどぅん あんびんでい でいー。
今日は良い天気なので、一緒に遊びに行こう。

すーや あみどぅ ふいぶるんがら まどぅん びんきゅ きるやー。
今日は雨が降っているから、一緒に勉強しよう。

ちまむぬい ならし とぅらしんに。与那国言葉を教えてちょうだい。